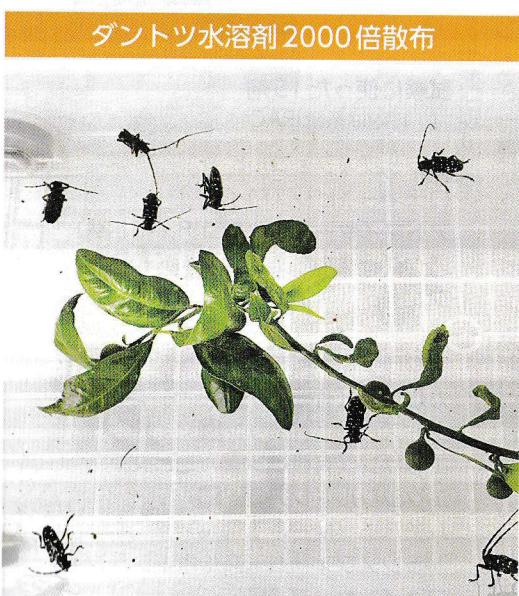




ゴマダラカミキリは10%しか死なず、生き残ったものはよく葉を食べ、たくさん糞をして元気



ゴマダラカミキリは90%が死んだ。葉が食べられたあとや糞がないのは効果がある証拠

スプラサイド乳剤1000倍散布

ゴマダラカミキリは、10%しか死なず、生き残ったものはよく葉を食べ、たくさん糞をして元気

ゴマダラカミキリは、90%が死んだ。葉が食べられたあとや糞がないのは効果がある証拠

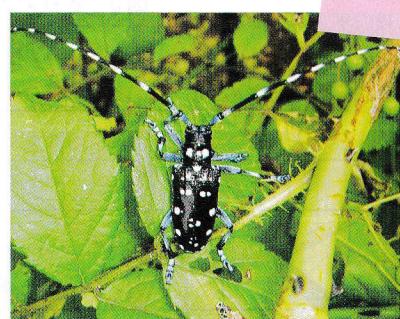
のプレゼントがあつたからか、集まつたのは想定していた200匹を超えて、なんと700匹以上。喧嘩で傷がついたゴマダラカミキリが多かつたので、そのうち400匹程度を使って順次試験を行ないました。

ゴマダラカミキリは、6月には枝葉をかじり、7月には樹の幹に産卵します。その後、幼虫が樹の内部を侵食し、樹勢が弱つたり枯死してしまいます。当地でも高齢化で放任園が増えたことで、年々ゴマダラカミキリが増えていいます。近年は温暖化の影響により発生時期が早く、成虫が飛

みカンにつくゴマダラカミキリは、6月には枝葉をかじり、7月には樹の幹に産卵します。その後、幼虫が樹の内部を侵食し、樹勢が弱つたり枯死してしまいます。当地でも高齢化で放任園が増えたことで、年々ゴマダラカミキリが増えていいます。近年は温暖化の影響により発生時期が早く、成虫が飛

び始める6月上旬から防除を開始している状況です。

J Aながみねの下津管内では6～7



ゴマダラカミキリの成虫 (新井真一撮影)

現場発 ミカンの農薬と ホルモン剤の 使い方 4

ゴマダラカミキリにも 抵抗性がついていた！

坂田寛樹

とカイガラムシの防除はスプラサイド（有機リン）という頭があります。

700匹集めて試験

昨年、ゴマダラカミキリにエクシル（ジアミド系）の薬剤効果がどの程度あるのか試験してほしいとメーカーに依頼されたのがきっかけで、薬剤効果試験を実施しました。

試験に使うゴマダラカミキリは、JA発刊のカンキツ栽培月刊誌「からち」で農家に呼びかけて集めました。ゴマダラカミキリ1匹につき手袋一つ

プラムシやアザミウマに登録があり、同時防除ができるような薬剤でも試験をすることにしました。

有機リン系に抵抗性があった

薬剤は直接虫にかかり殺虫する接触剤、枝葉にかかり殺虫する殺虫する経口剤に分かれます。45の試験区

を設け、選定した15薬剤それぞれの接触と経口効果の両方を調査しました。接触効果の調査はハンドスプレーをゴマダラカミキリに直接3回噴霧。経口効果の調査はミカンの枝葉に散布後、乾かしてからゴマダラカミキリと一緒に衣装ケースに入れて試験しました。

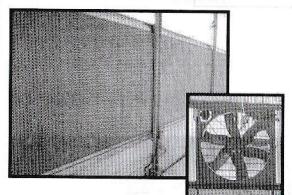
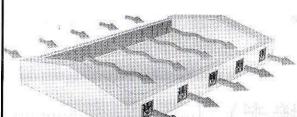
結果は、ネオニコチノイド系は全般

温室・畜舎 気化冷却システム なら

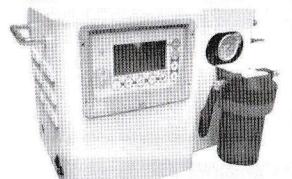
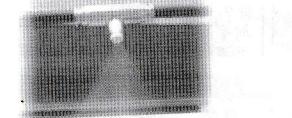


株式会社 イーエス・ウォーターネット

パッド&ファン



細霧冷房



高圧ポンプ細霧冷房やパッド&ファンなどご要望に応じて最適なシステムを提案します!
お気軽に問い合わせ下さい。

株式会社 イーエス・ウォーターネット
本社/TEL:042(355)7702
http://www.es-waternet.co.jp/

ザミウマとゴマダラカミキリの防除にはアドマイヤー、カイガラムシの防除にはスプラサイドを使うようにと指導してきました。チャノキイロアザミウマにアドマイヤーを使うのは、毎年やっている薬剤効果試験の結果で、この地域で有効だと判断したからです。近年は山際ではない園地でもチャノキイロアザミウマを見かけるようになり、どこの園地でも「アドマイヤー入れたほうがええで」とすすめています。しかし実際は、発生しやすい山際や防風樹に近い園地以外ではチャノキイロアザミウマへの意識が弱く、アドマイヤ

に効果が高く、ジアミド系のエクシレルも有効でした。なかでも、ネオニコチノイド系のアドマイヤーとアクタラは経口効果が高く、ダントツは経口・接触ともに効果が高いことがわかりました。一方で、これまですすめてきた有機リン系（スプラサイド、エルサン、ダーズパン）は1000倍で効果が出なかつたのです。さらに濃くした

500倍でも散布したり、薬液にゴマダラカミキリを浸したりしてみました。が、効果が劣る傾向となり、下津町ににおける薬剤抵抗性が見られました。今後、下津町ではスプラサイド、エルサン、ダーズパンは、ゴマダラカミキリを対象にした使用は、考え直す必要があります。

しかし、有機リン系の中でも、古い

一を入れない農家が多いのが現状です。そしてゴマダラカミキリについては、カイガラムシに対して使うスプラサイドでも防除できると、農家も私も思っていました。

しかし、今回の試験を受けて、今後はゴマダラカミキリに困る園地では、チャノキイロアザミウマの対策としてだけ考えられるがちなアドマイヤーを「入れたほうがええで」から「絶対入れなあかんと」という指導に切り替えていこうと思っています。

ただ、講習会などで今回の試験結果を報告すると、「6月はもう有機リン

薬剤であるカルホスは抜群の効果があります。カルホスは購買部から「有効期限切れ薬剤で在庫処分だから」と渡され、ついでに試験をしたノーマーク薬剤です。今後、他の害虫でも試験を行ない検討しようと思っています。

抵抗性は地域ごとに違う

これよりも、6月のチャノキイロア

カイガラムシ類	スプラサイド乳剤1000倍
チャノキイロ アザミウマ	アドマイヤーフロアブル3000倍
ゴマダラカミキリ	
ミカンハダニ	ハーベストオイル200倍

6月の害虫防除

6月10～20日

ゴマダラカミキリに困ったら、アドマイヤーを入れなあかん



試験に使った15剤

() 内は系統IRAC

キラップ（フェニルピラゾール②B）
ロディー（ビレスロイド③A）
アドマイヤー（ネオニコチノイド④A）
アクタラ（ネオニコチノイド④A）
ダントツ（ネオニコチノイド④A）
トクチオン（有機リン①B）
スプラサイド（有機リン①B）
カルホス（有機リン①B）
ダーズパン（有機リン①B）
エルサン（有機リン①B）
エクシレル（ジアミド②B）
ハチハチ（METI剤②A）
トランスフォーム（スルホキシミン④C）
ファインセーブ（未明）
オリオン（カーバメート①A）